

多摩から江戸・東京をつなぐ水循環の保全再生第 3 回シンポジウム

市民が選ぶ玉川上水・分水網の関連遺構 100 選

～玉川上水・分水網にまつわるお宝をみんなで次の世代に伝えていきませんか～

目次

プログラム	1
1. メッセージ	2
2. 玉川上水・分水網をいかした水循環都市東京連絡会の目的と活動	8
3. 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100 選	12
4. 玉川上水・分水網の関連遺構 100 選候補	14
5. 玉川上水・分水網の関連遺構とその構成	18
今後の展開について	21

2018 年 12 月 1 日

玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会

プログラム

開演：午後1時30分

総合司会 須磨佳津江（キャスター・ジャーナリスト）

主催者挨拶 田畑貞寿（玉川上水・分水網保全再生連絡会代表）

1. シンポジウムの趣旨について

福井 恒明（法政大学江戸東京研究センター・外濠再生懇談会）

2. 報告

報告（1）「玉川上水・分水網関連遺構100選」

西村 幸夫（プロジェクト未来遺産委員長 神戸芸術工科大学教授）

玉川上水分水網100選を読む：真下 祥幸（江戸東京博物館学芸員）

報告（2）「玉川上水・分水網の関連遺構と試験通水を巡って」

山田 正（玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会代表 中央大学教授）

（休憩）

3. パネルディスカッション

「水の縁でつなぐ玉川上水・外濠・日本橋川」

司会：谷下 雅義

パネリスト

西村 幸夫

真下 祥幸

陣内 秀信（法政大学江戸東京研究センター特任教授）

竹村 公太郎（日本水フォーラム代表理事）

山本 泰人（日本橋再生推進協議会 水辺再生研究会理事長）

今後の展開について（事務局）

終了：午後4時

1. メッセージ

(1) 国土交通大臣 石井 啓一 様

「多摩から江戸・東京をつなぐ水循環の保全再生」第3回シンポジウムが開催されるにあたり、お祝いの言葉を申し上げます。

ご列席の皆様方におかれましては、日頃より国土交通行政・水循環施策の推進に格別のご理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

水は、生命の源であるだけでなく、古くから人々の営みの基礎として、社会、文化、経済の繁栄を支え、私たちの生活に大きな「恵み」を与えてまいりました。

その一方で、水は、時として洪水や渇水などの「災い」をもたらします。気候変動の影響等が指摘される中、今年は、平成30年7月豪雨、台風第21号、北海道胆振東部地震など、大規模な自然災害が発生し、大きな被害に見舞われました。近年、水害が激甚化・頻発化する一方で、昨年、一昨年には全国各地で渇水が発生するなど、私たちの暮らしを脅かす面も顕著になっています。

このような水のもたらす「災い」を減じつつ、将来にわたって水の「恵み」を享受していくため、私たちの生活や経済活動に果たす水の役割と、自然環境に果たす水の役割のバランスを適切に保つこと、すなわち、健全な水循環の維持・回復が必要です。

そのためには、水循環全体の姿を捉え、水の様々な問題に関係者が一体となって適切な対応策を講じていくとともに、私たち一人一人も、普段触れている水に対して意識を持ち、これを流域での様々な取組につなげていくことが大切です。

玉川上水・分水、外濠、日本橋川等の保全再生につきましては、流域で研究や諸活動に取り組んでいる大学関係者、市民団体、地元関係者がネットワークを形成し、情報共有しながら活動されていると伺っております。

玉川上水・分水網にまつわる歴史的遺構の選考を通じ、水でつながる地域の歴史を学び、その歴史や文化を次世代に継承することは、将来にわたって健全な水循環を確保する上で極めて重要であり、本日のシンポジウムの開催は誠に意義深く、皆様の取組に深く敬意を表す次第です。

政府といたしましても、水循環に係る具体的施策を効果的かつ効率的に推進するとともに、その重要性についての理解と関心をより一層深めていただくことを通じて、貴い水が健全に循環する社会が実現することを目指して、国民の皆様とともに行動してまいります。

つきましては、皆様方をはじめとする関係者お一人お一人に一層のご支援を願いますように、改めてお願い申し上げます。

結びに、本シンポジウムの御盛会とご参加の皆様方のますますの御発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

平成30年12月1日

国土交通大臣・水循環政策担当大臣、石井 啓一

(2) 東京都知事 小池 百合子 様

「多摩から江戸・東京をつなぐ水循環の保全再生」に関するシンポジウムの開催、誠にありがとうございます。

今年は、江戸から東京への改称、東京府開設から百五十年という節目の年でございます。本日、関係者の皆様のご尽力により、本シンポジウムが開催されますことは、江戸の昔から「水の都」として発展してきた東京にとって、大変意義深いことと存じます。

東京都は、昨年九月、「都市づくりのグランドデザイン」を策定し、二〇四〇年代の目指すべき東京の都市の姿と、その実現に向けた基本的な方針と具体的な方策を示しました。

この中で水に関しては、利水から治水、水辺空間の再生に至るまで、多様な施策を展開していくこととしており、水の恵みを享受できる良好な水循環の実現や、まさに潤いを与える水辺空間の形成などについても、様々な取組を進めてまいります。

今回のシンポジウムにより、都民をはじめとする多くの皆様の間で、東京における良好な水環境の形成に向けた機運が一層高まることを期待しております。

結びに、本シンポジウムの御盛会と、本日ご列席の皆様の方々のご健康、御発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

平成三十年十二月一日

東京都知事 小池 百合子

(3) 特別区長会長 西川 太一郎 様

ごあいさつ

特別区長会長
荒川区長 西川 太一郎

多摩から江戸・東京をつなぐ水循環の保全と再生 第3回シンポジウムの開催を心からお慶び申し上げます。

私たちの暮らす東京は、人口1,400万人に迫る世界有数の大都市であると共に、「水の都・東京」と呼ばれる一面も持った魅力的な都市であります。今も、東京の川や運河には、多くの人々や荷物を乗せた船が行き交っており、我々の生活に欠かすことのできない光景となっています。私どもが、豊かな水資源の恩恵を享受できるのも、先人達が様々な苦難を乗り越え、築き上げてきた財産があるからこそだと日々感じております。

玉川上水・分水網は、江戸に住む人々の生活基盤を支え、33ある分水は農業や工業等にも利用され、産業発展に大きく寄与し、今日の東京発展の礎となった水と緑の回廊であります。そこで育まれた豊かな自然・歴史・文化は、世界が東京に誇ることのできるレガシーであります。先人達から託されたこの豊かな水資源を活かしながら次世代に引き継ぐのは、我々の世代の責務です。

特別区長会でも、東京都市長会、東京都町村会と連携し、「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」として、都内全62市区町村が、一丸となって次世代に良い環境を残すための取り組みを行っており、皆様と志を同じくするものと思っております。

最後になりますが、本日のシンポジウムを主催されました、「玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会」の山田正先生をはじめ、関係の皆様への努力に敬意を表しますとともに、この取り組みが未来の東京への糧となりますことを願いまして、私からの挨拶とさせていただきます。

(4) 福生市長 加藤 育男 様

玉川上水ネット

代表 西村 弘 様

「多摩から江戸・東京をつなぐ水循環の保全再生」第3回シンポジウムの開催、誠に
おめでとうございます。

本日は所用によりお伺いすることができず残念です。

シンポジウムの御成功と、皆様方の益々の御発展を心よりお祈り申し上げます。

平成三十年十二月一日

福生市長

加藤 育男

(5) 立川市長 清水 庄平 様

本日は、「多摩から江戸・東京をつなぐ水循環の保全再生」第3回シンポジウムのご開催、誠にありがとうございます。

かつて、江戸のまちに貴重な飲料水を供給し、武蔵野開墾の礎となった玉川上水は、様々な取り組みを経て、現在でもその流れを留めており、緑豊かな憩いの場として、多くの皆様に安らぎと潤いを与える空間となっております。

立川市には、玉川上水の完成後まもなく引かれた砂川分水の他にも、殿ヶ谷分水、柴崎分水、源五右衛門分水という玉川上水の分水があります。今回のシンポジウムでは「玉川上水・分水網の関連遺構 100 選」が発表されるという事で、これにより、玉川上水とその分水網が歴史的な資産としても、より一層多くの皆様に親しまれることになるだろうと思っております。

結びに、本シンポジウムのご盛会と、ご来場の皆様並びに関係者の皆様方のご健勝と益々のご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

平成30年12月1日

立川市長 清水 庄平

(6) 東大和市長 尾崎 保夫 様

「多摩から江戸・東京をつなぐ水循環の保全再生」第3回シンポジウムの開催、誠にありがとうございます。

武蔵野台地を東西に貫く玉川上水と分水網は、古くは、人々の生活を支え、日々の暮らしに欠かすことのできないものとして親しまれてきました。

こうした豊かな水辺は、都市で暮らす人々にゆとりと安らぎを与える貴重な空間となっており、これらの貴重な財産を、次の世代に引き継いでいくことは、今を生きる私たちの責務であります。

良好な水環境の保全に向けた取り組みは、一人ひとりの環境への関心を高めていくことが大変重要となります。皆様の活動により、環境保全に対する意識の醸成が一層促されるとともに、活動の輪がますます広がりますことを心よりご期待申し上げ、お祝いの言葉といたします。

東大和市長 尾崎 保夫

(7) 小平市長 小林 正則 様

多摩から江戸東京をつなぐ水循環の保全と再生

シンポジウムによせて

「多摩から江戸東京をつなぐ水循環の保全と再生」第3回シンポジウムの開催、誠におめでとうございます。

国の史跡である玉川上水や、その分水網の歴史的価値を高めその保全・再生を図ることは、これからの東京における「水と緑のあるまちづくり」の上からも大変意義深いものだと思います。

今回のシンポジウムが、そうした機運をますます高めていくものと期待しております。

貴会のさらなる発展と、皆様のご健勝ご活躍をお祈り申し上げます。

平成30年12月1日

小平市長 小林正則

(8) 小金井市長 西岡 真一郎 様

多摩から江戸・東京をつなぐ水循環の保全と再生
第3回シンポジウムへ参加されている皆様

本日お集まりの皆様方には、日頃より、玉川上水と分水網を生かした水循環都市東京のあり方を探る活動や、地域の歴史・文化財を積極的に活用しようとする活動を通し、東京都の発展、多摩地域の発展のためにご尽力いただいておりますことに深く敬意を表します。

本日は、次世代にも残すべき素晴らしい玉川上水・分水網の関連遺構についてのシンポジウムと伺っております。

小金井市内にも候補地があることは、玉川上水とその分水網が、江戸時代の武蔵野の風景に思いをはせることのできる、次世代にも残したい地域の宝であると認識しております私にとっても大変に喜ばしい限りでございます。

玉川上水と分水網がもたらした水循環による湧水涵養機能の復活を望む多くの市民がいる当市にとりましても、本シンポジウムが、玉川上水の持つさまざまな魅力に脚光をあて、再び世界に誇る水都東京の形成に有意義なものとなることを期待いたします。

結びに、ご来場の皆様方並びに関係者の皆様方のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

平成30年12月1日

小金井市長 西岡真一郎

「多摩から江戸・東京をつなぐ水循環の保全再生」
第3回シンポジウムの開催、誠にありがとうございます。

承応2～3年(1653～1654)、玉川兄弟によって、羽村から四谷まで開削された玉川上水は、飲料水やかんがい用水として、武蔵野台地の開発に大きな役割を果たしてきました。約43キロメートルの上水と、現存する分水網は、歴史を伝える貴重な資源として、今でもまちに潤いを与え続けています。

玉川上水とその分水となる千川上水は、武蔵野市の緑と水のネットワークの重要な軸となっています。緑豊かなこの水辺空間を軸として、生物多様性や文化歴史の視点からも、今後も緑あふれるまちづくりを進めてまいり所存です。皆様方の活動により、この水辺空間の魅力がさらに発展していく事を期待いたします。

本日は他の公務のため、残念ながら伺うことができませんが、本シンポジウムのご成功と、本日ご参加の皆様のご活躍を心よりお祈りいたします。

平成30年12月1日

武蔵野市長 松下 玲子

「多摩から江戸・東京をつなぐ
水循環の保全再生」シンポジウムによせて

本日は、「多摩から江戸・東京をつなぐ水循環の保全再生」第3回シンポジウムのご開催、誠にありがとうございます

江戸の町を支える水道として、当時の土木技術の粋を集めて整備された玉川上水は、数百年の時を経た現在、私たち地域住民や訪れる皆様へ、緑豊かな心安らぐ癒しの空間を与えてくれています

三鷹市は、国の史跡である玉川上水の自然環境と歴史的価値を保全して、次世代に引き継ぐために、自然と共生する良好な環境を目指して、市民や関係団体の皆様との協働による「緑と水の公園都市」にふさわしいまちづくりを進めていきます

本日のシンポジウムによって、玉川上水の多面的な価値が再確認されるとともに、未来に向けて、良好な環境を保全していく気運が、一層高まることを期待いたします

結びに、本日のご盛会と、ご参加の皆様のご健勝と益々のご活躍を心からお祈りいたします

平成30年(2018年)12月1日

三鷹市長 清原 慶子

(11) 新宿区長 吉住 健一 様

多摩から江戸・東京をつなぐ水循環の保全と再生 第3回シンポジウム

◆区長メッセージ

「玉川上水・分水網」に関わるシンポジウムの開催おめでとうございます。

新宿区では、「玉川上水」を未来に引き継ぐべき区民共有の財産と位置づけ、新宿御苑に沿う散歩道に、かつて近傍を流れていた「玉川上水」を偲ぶ流れを再現しました。区民に親しまれる散歩道であるとともに、歴史的なシンボルであり、都市における水循環と生物多様性の回復に貢献するものと考えております。

本シンポジウムのご盛会と、ご参加の皆様のご発展を祈念いたします。

新宿区長 吉住健一

(12) 中央区長 矢田 美英 様

お祝い

中央大学理工学部都市環境学科 山田研究室
水循環都市東京シンポジウム実行委員会 御中

「多摩から江戸・東京をつなぐ水循環の保全と再生」第3回シンポジウムが開催されましたことを心からお祝い申し上げます。玉川上水は、江戸のまちの繁栄を支えた重要なインフラであり、その遺構を甦らせ後世に引き継ぐ活動は大変意義深いことと存じます。本シンポジウムの成功と貴会のますますの発展、皆さま方のご健勝・ご活躍を心からお祈り申し上げます。 中央区長 矢田 美英

2. 玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会の 目的と活動

(1) 玉川上水の現状～水が流れていない玉川上水～

玉川上水は、開削以来明治・大正・昭和と水道の大動脈としてとうとうと流れていた。しかし、利根川水系を組み込んだ近代的な広域水道システムの形成にあわせ、昭和40年に淀橋浄水場が東村山浄水場へ合併移転される。以降、

上流部の一部区間を除いて、河川の水は流れなくなり大きく変貌する。一方、水路の保全要望も強く、緑、歴史・文化、景観等から保全対策が講じられる。さらに、昭和60年には下水道処理水による環境用水の導入。平成15年には国の史跡に指定される。しかし、樹林の繁茂、水路の崩落等の問題も多い。また、お濠への導水も昭和40年には停止となりお濠、日本橋川等の水質悪化の要因の一つといわれている。玉川上水・分水網の保全再生には多摩川からの河川水通水が不可避の条件でもある。

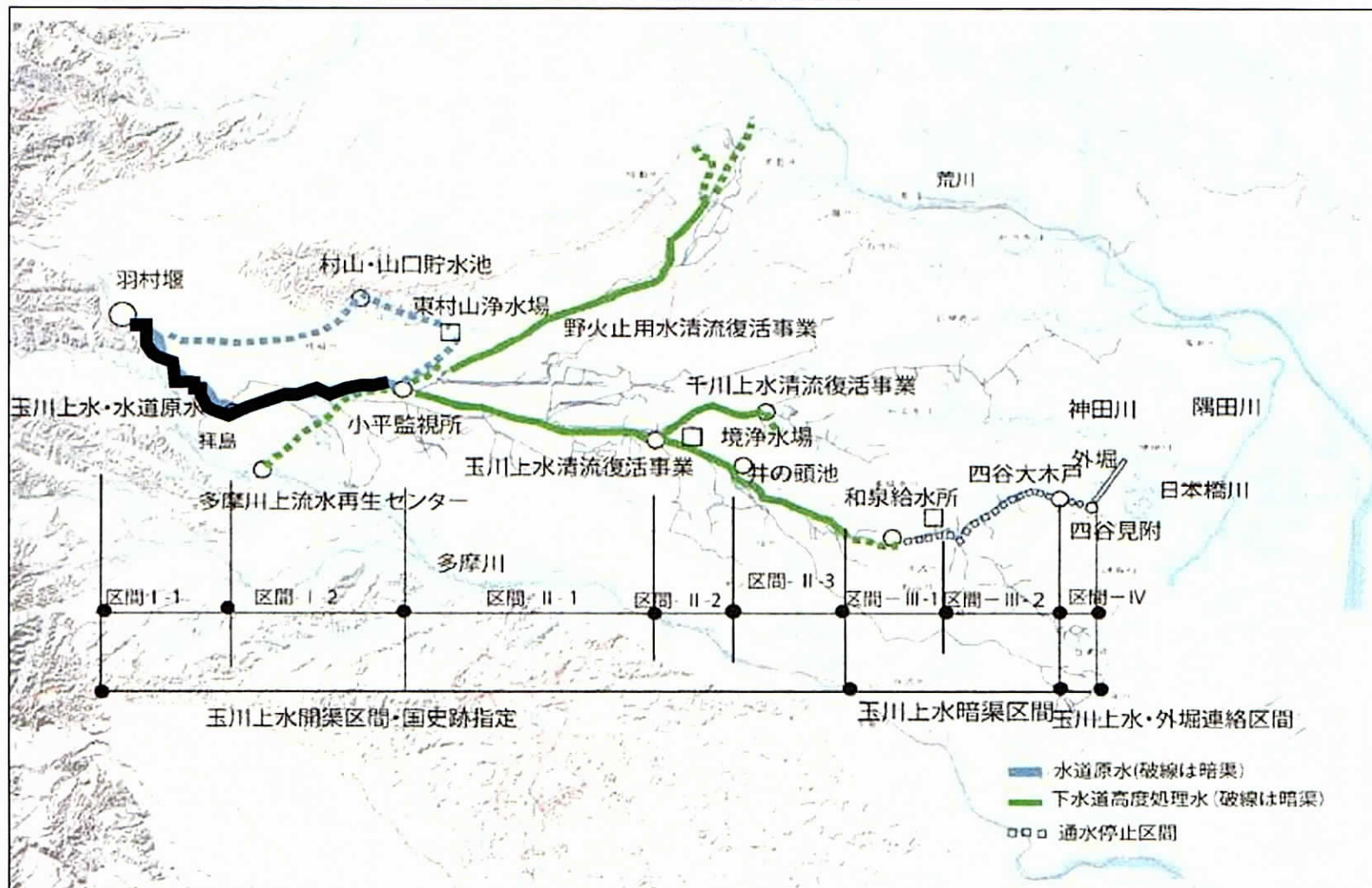


図-1 玉川上水の現状

(2) 組織とこれまでの活動

玉川上水・分水網の保全再生のため3回のシンポジウム開催を通して、大学・市民(団体)により玉川上水の羽村取水堰から隅田川に至る自然の流れ(自然流下)に沿った連携ができ上がりつつある。

さらに、玉川上水を軸とした分水網の連携の輪も広がりつつある。これに呼応した自治体のネットワーク化の動きも見え始めた。

<p>玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会</p> <p>代表 山田正 (中央大学教授)</p> <p>2016. 05. 21 設立</p> <p>シンポジウムの経緯</p> <p>基本テーマ</p> <p>「多摩から江戸東京をつなぐ水循環の保全再生」</p> <p>第1回シンポジウム 2016. 10.08 ~ 10</p> <p>(東京都議会棟、講演会場、ギャラリー)</p> <p>—武蔵野と江戸下町の連携—</p> <p>第2回シンポジウム 2017. 8. 19</p> <p>(東京都江戸東京博物館大ホール、日本橋川船上視察)</p> <p>—玉川上水・外濠・日本橋川の試験通水—</p> <p>第3回シンポジウム 2018. 12.1</p> <p>(法政大学富士見校舎)</p> <p>—市民が選ぶ玉川上水・分水網の関連遺構—</p>

<p>水循環都市東京シンポジウム実行委員会</p> <p>総括実行委員長 山田正 (中央大学教授)</p> <p>実行委員長 陣内秀信 (法政大学教授)</p> <p>実行委員長 天野光一 (日本大学教授)</p> <p>実行委員長 宇野求 (東京理科大学教授)</p> <p>実行委員長 沖大幹 (東京大学生産技術研究所教授)</p>

<p>玉川上水・分水網の保全再生連絡会</p> <p>代表 田畑貞寿 (千葉大学名誉教授)</p> <p>武蔵野を中心とした自然歴史文化の保全再生に係る他分野の有識者・市民団体代表のネットワーク)</p>

<p>玉川上水ネット (未来遺産登録団体)</p> <p>代表 西村 弘</p> <p>玉川上水・分水網の保全再生、利活用に係る市民団体のネットワーク (23 団体 6 個人 会員 約 2000 名)</p>

<p>日本橋水辺再生研究会</p> <p>代表 山本 泰人 (海苔の山本社長)</p> <p>日本橋再生推進協議会の中で特に水辺再生、水辺の有効活用について活動</p>

<p>外濠再生懇談会</p> <p>代表 陣内秀信 (法政大学教授) 宇野求 (東京理科大学教授)</p> <p>外濠の水質改善、道路・公園のあり方および周辺のまちづくり、景観のあり方について検討</p>

- ・2014.12 ~ 2015.5 大学リレーシンポジウム開催
- ・2015.5 水循環都市東京宣言
- ・2016.12. 国土交通大臣, 都知事宛要望書提出

- 2015.5.29 玉川上水・分水網を世界遺産・未来遺産へシンポジウム開催
- ・2016.12. 国土交通大臣, 都知事宛 要望 書提出
- ・世界遺産準備会から名称変更

- ・2011.7 玉川上水ネット設立
- ・2013.5 玉川上水リレーウォーク, シンポジウム開催, 自然観察会等開催
- ・2016.12.7 未来遺産登録

- ・2008 設立
- ・日本橋川の浄化活動, イベントを開催
- ・第2回シンポジウムから共催

- ・2016 設立
- ・周辺の大学, 企業, 町内会等で組織
- ・外濠市民塾の活動とも連携

表-1 玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会の組織構成

(3)

①基本的な視点

【玉川上水への河川水導水】

多摩川からの導水より、玉川上水・分水網・外濠・日本橋川をつなぐ玉川上水系を、将来の東京の水循環、水と緑の回廊の基軸（グリーンインフラ）としてとらえる。

【玉川上水を軸として形成された分水網の保全再生】

玉川上水からの分水により形成された、武蔵野台地の自然、歴史文化的価値を再評価し、保全再生を促す。

【玉川上水への通水・分水網の保全再生により新しい東京像を形成を促す】

水循環の再生、水辺のある都市、自然豊かな生活環境の創出へ

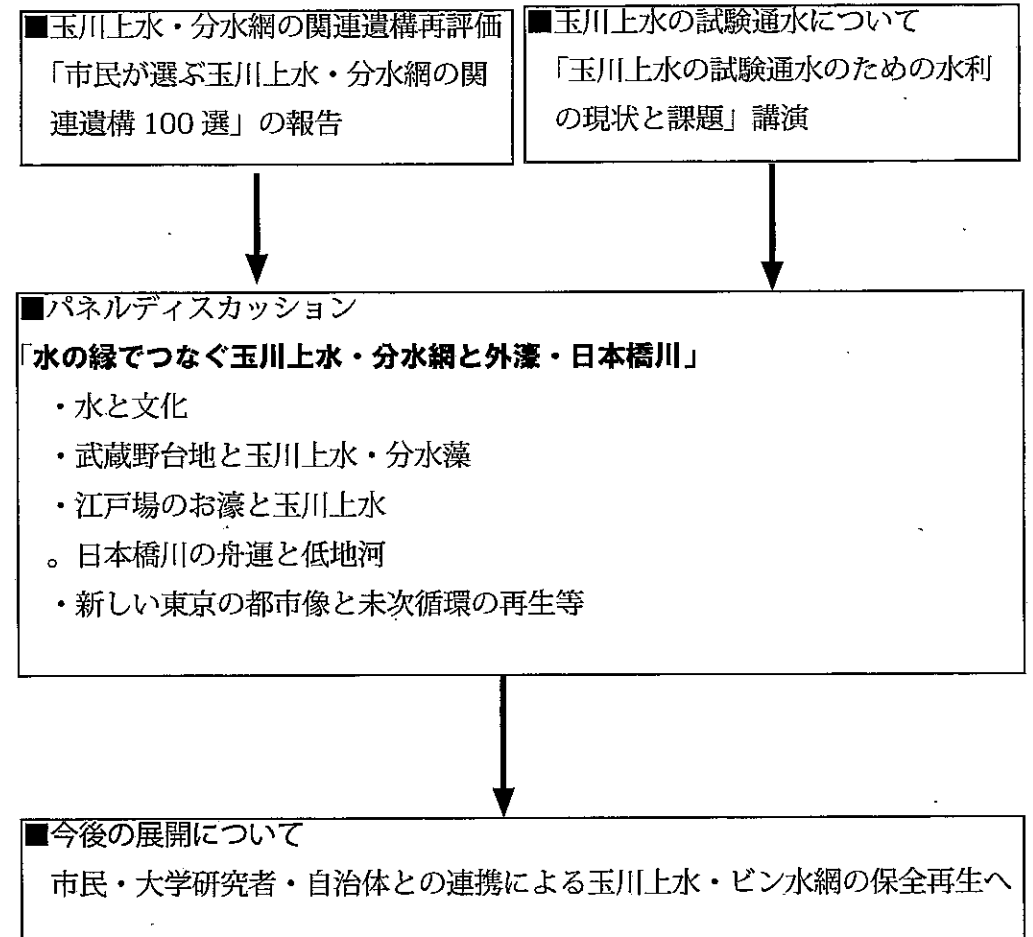
②3つの課題

1. 緊急の課題：玉川上水への河川水試験通水による外濠の水質浄化
（オリンピック、浚渫・下水道一時貯留との連動）

2. 中期の課題：災害時の安定した水利の確保
（都心再開発と連動した緊急時の消防・生活用水の確保、）

3. 長期的課題：玉川上水を軸としたグリーンインフラの形成
（安定した水利・水循環の再生・水辺の自然、歴史文化、利活用の一体的管理）

(4) シンポジウムの構成



講師・パネリストの先生方のプロフィール

お名前	所属	ご専門	主な著書・活動など
田畑 貞寿	千葉大学名誉教授 日本自然保護協会顧問 世界不動文化遺産研究会会長	造園学 景相生態学 環境計画学 景観工学	前日本自然保護協会理事長 内閣府第5回みどりの学術賞受賞 主な著書「緑と地域計画Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ」「市民ランドスケープ創造Ⅰ・展開Ⅱ」 「都市のグリーンマトリックス」等
福井 恒明	法政大学デザイン工学部教授		外濠再生懇談会事務局長 日本の土木遺産 近代化を支えた技術を見に行く (講談社ブルーバックス、分担執筆) 景観法と土木の仕事 (土木学会、分担執筆) 都市の水辺をデザインする (彰国社、共著) 等
西村 幸夫	神戸芸術工科大学教授 東京大学名誉教授 プロジェクト外未来遺産委員長	都市計画 都市景観計画 都市デザイン	日本エコモス国内委員会委員長 主な著書「西村幸夫景観論ノート」「町を想う」「県都物語 -47 都心空間の近代を歩く」等
真下 祥幸	東京都江戸東京博物館学芸員	日本近世史 多摩地域史	主な展覧会「多摩の街道と宿場」2000、「大岡越前守と武蔵野神殿の開発」2002、「玉川上水と分水」 2007、「甲武鉄道と多摩」2009、「川崎平右衛門」2016 (以上江戸東京たてももの園) 「徳川御三卿」2010、「日光東照宮と将軍社参」2011、「くらべてみよう江戸時代」2015 (以上江戸東京博物館)
山田 正	中央大学理工学部教授	水文学、水理学、 河川工学	2018年土木学会功績賞受賞、2013年産学官連携功労表彰国土交通大臣賞受賞。 前水文・水資源学会会長。東京都事業評価委員会委員長、東京都河川整備計画策定専門家委員会副委員長等、 要職多数。 日本のかわと河川技術を知る一利根川, 土木学会水工学委員会(分担) など
谷下 雅義	中央大学理工学部教授	都市工学	オランダ: 水に囲まれた暮らし (中央大学出版会, 編訳) 都市地域計画 (コロナ社, 単著) など
陣内 秀信	法政大学江戸東京研究センター 特任教授 中央区立郷土天文館館長	イタリア都市建築 史	国土交通省景観大賞審査委員長 主な著書「東京の空間人類学」「都市を読む・イタリア」「水都ヴェネツィア その持続的発展の歴史」
竹村 公太郎	日本水フォーラム代表理事	土木工学 河川工学	元国土交通省河川局長 「日本文明の謎を解くー21世紀を考えるヒント」「土地の文明 地形とデータで日本の都市の謎を解く」「幸運な文明ー日本生きる」「日本史の謎は「地形」で解ける」等
山本 泰人	日本橋再生推進協議会 水辺再生研究会会長 (山本海苔店副社長)		日本橋再生推進協議会水辺再生研究会は2007年に発足。日本橋川を中心とした日本橋の活性化に取り組んでおり、2008年には「日本橋地域における水辺空間を活かしたまちづくり」に向けた提言を発表。これをもとに2011年「日本橋船着場」が完成し、舟運が復活した。その後も日本橋川の浄化対策検討、高速道路問題への取り組みなど、積極的に活動を進めている。

3. 市民が選ぶ玉川上水・分水網の関連遺構 100 選

(1) 目的

玉川上水・分水網は、羽村堰を頂点として武蔵野台地を樹枝状に展開し、低地・下町へと連なる土地に刻まれた水循環と情報のネットワークとしても見ることが出来る。このような視点から、各地域に刻まれた玉川上水・分水網の関連遺構や現地の流路の痕跡等をたどれば、分水路(痕跡)・玉川上水・羽村堰へと連なる膨大な自然・歴史文化の展開を実感できるのではないかと考えられる。

このため、本プロジェクトでは地域毎に玉川上水・分水網に関連して調査・活動している多くの市民(団体)に関連する遺構の発掘を依頼し、発掘した情報を持ち寄り公開することにより、玉川上水・分水網の水路系統全体の情報共有化を促すこととした。

そしてこのプロジェクトを通して水路と関連遺構の顕彰と市民活動のネットワークを背景に、関係行政機関の協力と連携のもと、玉川上水・分水網の保全と水循環の再生を促すことを目的としている。

従って、このプロジェクトは、玉川上水・分水網の保全再生活動を目的としており、文化財調査等とは目的も調査方法も異なることを付記しておきます。

(2) 選定の方法

① 市民団体による選定

「玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会(図-1参照)」を中心に関連する市民団体に呼びかけ、39団体の方々に参加いただいた。

調査は市民団体の活動に応じて担当区間区分を決め、担当区間内の「玉川上水・分水網の関連遺構(地域のお宝!)」約10点を目途に発掘し提出、さらに特に重要と思われる関連遺構を2~3点選んでいただいた。この結果、全部で229点の提案があった。

	遺構数	内重要遺構	摘要
本線	95	41	
分水路	134	37	
計	229	78	

表-2 市民の関連遺構選定数

水系名称	番号	区間区分	行政区域	区間責任者	調査市民団体
玉川上水上流	1-1	羽村堰-平和橋	羽村市・福生市	柳橋洋嘉	玉川上水遊歩道を考える会
	1-2	平和橋-小平監視所	拝島市・昭島市・立川市	柴俊男 萩本悦久	玉川上水の自然保護を考える会
玉川上水中流	II-1	小平監視所-三鷹駅	小平市・小金井市・西東京市・武蔵野市・三鷹市	西村弘 鈴木利博	小平ユネスコ協会 玉川上水を守る会 みどりのつながり市民会議 学び舎 江戸東京ユネスコクラブ ちむくい 玉川上水ストーリーテラズ 小平 井戸の会 武蔵野ユネスコ協会 玉川上水を守り育てる市民の会
	II-2	三鷹駅-浅間橋	三鷹市・杉並区	山崎善弘 田中雅文 黒木由里子 田中茂利	住みよい環境をつくる三鷹市民の会 玉川上水すぎなみの会 玉川上水 再々発見の会
	II-3	浅間橋下流-笹塚駅	杉並区・世田谷区・渋谷区	高橋 健	世田谷環境学習会
玉川上水下流	III	笹塚駅下流-四谷見附	渋谷区・新宿区	小山裕三	NPO 新宿環境活動ネット
外濠	IV	四谷見附-飯田橋	新宿区・千代田区・港区	福井恒明	外濠再生懇談会
日本橋川	V	飯田橋-隅田川	千代田区・中央区	山本泰人 石井亮	日本橋水辺再生研究会
神田川神田上水		今回のプロジェクトでは対象外とした			

表-3 本線調査の担当区間と団体

水系名称	番号	分水系統・区間	行政区域	責任者	調査参加団体
上流域	U-1	田村・熊川・拝島	福生市・拝島市	柳橋洋嘉	玉川上水遊歩道を考える会
	U-2	殿ヶ谷・柴崎・源五右衛門・砂川	立川市	柴俊男 萩本悦久	玉川上水の自然保護を考える会
中流域	M-1 ①	野火止用水上流	小平市・東大和市・東村山市・東久留米市・清瀬市	小倉安洋	玉川上水野火止ネットワーク・東大和
	M-1 ②	野火止用水下流	新座市・志木市・朝霞市	菅谷輝美	新河岸川水環境ネットワーク
	M-2 ①	小平用水・小川分水系統	小平市	山崎善弘 田中雅文 黒木由里子 田中茂利	小平ユネスコ協会 玉川上水を守る会 みどりのつながり市民会議 学び舎 江戸東京ユネスコクラブ ちむくい 玉川上水ストーリーテラズ 小平井戸 の会、玉川上水再々発見の会、
	M-2 ②	小平用水・新堀用水系統	小平市	西村弘 鈴木利博	
		田柄分水	今回の調査対象外		
	M-3	国分寺分水	国分寺市	佐藤敬臣	美しい用水の会(ミズモリ)
	M-4	下小金井・梶野・境村分水	小金井市	加藤嘉六	小金井玉川上水を守る会
M-5 ①	千川上水上流	武蔵野市・練馬区	渡辺卓治 田中純江	玉川上水を守り育てる市民の会 武蔵野ユネスコ協会	
M-5 ②	千川上水中流	板橋区・豊島区・北区	大澤鷹澄 横戸英治 有馬純雄	板橋区史談会 豊島区：巣鴨庚申塚のまちづくりを 考える会 北区：北区史を考える会	
M-5 ③	千川上水下流	文京区・台東区	柳澤 愈	文京文化資源リサーチ倶楽部	
下流域	D-1	品川・牟礼・深大寺	三鷹市 武蔵野市	田中茂利 渡部一二	住みよい環境をつくる三鷹市民の会
	D-2	鳥山・上北沢・下高井戸等	世田谷区・杉並区	黒木由里子	玉川上水すぎなみの会
	D-3	三田・青山(渋谷川)	渋谷区・目黒区	梶山公子 天羽大器	渋谷川・水とみどり研究会
	D-4	幡谷・原宿等	新宿区・渋谷区	小山裕三	NPO 新宿環境活動ネット

表-4 分水調査の担当区間と団体

(3) 選考委員会による選考

市民団体により選んでいただいた情報には地域的な偏り、活動区間中間点や重要とされている情報の欠落、明らかに誤解と思われる情報等が混在している可能性がある。このために、各分野の有識者により選考委員会（表-5）を設置し遺構に関する情報の確認の作業を行った。

選考委員会の情報整理にあたっては、まず次の基本的事項を確認した。

- ①市民が選んだ関連遺構、重要遺構はできるだけ尊重する。
- ②玉川上水本線の分水口等の系統的に理解できる遺構はできるだけ整理する。
- ③分水名等は、明治初期の合口事業以降を基本としてできるだけ体系的に整理する。
- ④明らかな誤解あるいは、疑義のある遺構さらに私有地などで混乱が生じる遺構は除外する。

さらに、次の方針で各選考委員の方々に遺構情報の確認をいただいた。

- ①市民が抽出したすべての情報についてチェックいただき重要と思われる遺構を各々の視点から評価する。
- ②市民が重要遺構と評価した情報について、再度確認いただく。
- ③玉川上水・分水網の全体系を理解する上で特に重要となる遺構情報を追加提案する。
- ④この評価に基づいて、市民が指摘した情報、委員の提案した情報について2以上の賛同があったを遺構を100選候補として取り上げた。

専門分野	お名前	所属等
歴史文化遺産保全	西村 幸夫	プロジェクト未来遺産委員長・神戸芸術工科大学教授
河川工学・水文学	鼎 信次郎	東京工業大学理工学部教授
土木史	知野 泰明	日本大学理工学部准教授・土木学会土木史委員会委員長
多摩の歴史と文化	真下 祥幸	東京都江戸東京博物館学芸員
自然環境	開発 法子	前日本自然保護協会事務局長・リスの家代表
武蔵野台地の水利用	小坂 克信	産業考古学会理事 水車と白分会代表、立川市史編さん委員
江戸の水文化	山本 泰人	日本橋再生推進協議会水辺再生研究会代表

表-5 選考委員の方々

(4) 関連遺構100選候補の選定

2度の選考委員会と資料の持ち回り審議および、関連市民団体へのヒヤリングを経て最終的に、表-6に示す106点を関連遺構100選とした。このうち約半数は市民推挙と委員3人以上推挙があった遺構である。

今後この遺構を基本にデーターを精査し、最終的納100選として公開したいと考えている。

	選外		100選 遺構		計
	1点以下	2～3点	4点以上	小計	
本線	45	20	23	43	88
分水路	105	41	22	63	123
計	150	61	45	106	211

表-6 関連遺構の選定点数

一方、これらの選定された遺構を10の種別に分け、本線・分水に区分して特徴を見た。この結果、次のような傾向があることが分かった。

- ・このプロジェクトが関連遺構としたこともあり、本線・分水とも水路の特異な構造の指摘が約1/4を占めていた。
- ・本線・分水とも水路の泉水などを含む水辺利用が約20%となった。
- ・本線では分水の比べて街道・橋梁および水道の関連の遺構が多く挙げられた。
- ・これに対し、分水は水利利用、新田開発などが多く挙げられあがられており、生活に密着した遺構が大きな特徴となっている。

	1. 水路橋	2. 水利施設	3. 街道橋	4. 新田開	5. 水辺利用	6. 水踏	7. 水遺構	8. 水辺園	9. 歴史・自	10. 文・景	計
本線	20	9	13	0	16	2	5	4	2	17	88
構成比	23%	10%	15%	0%	18%	2%	6%	5%	2%	19%	100%
分水	29	27	9	9	25	2	0	1	6	15	123
構成比	24%	22%	7%	7%	20%	2%	0%	1%	5%	12%	100%
合計	49	36	22	9	41	4	5	5	8	32	211
構成比	23%	17%	10%	4%	19%	2%	2%	2%	4%	15%	100%

表-7 関連遺構の種別区分

4. 市民が選んだ玉川字白井町が選んだ玉川上水・分水網関連遺構 100 選候補

(1) 市民が選んだ玉川上水本線関連遺構100選候補 (○2~3人の評価, ◎4人以上の評価) ※1

区間区分	行政区	番号	記号	分類	タイトル	評価	摘要
T.全区間	羽村市～渋谷区	1	T-1	1. 水路構造	玉川上水築掘り水路	◎	国指定史跡
	羽村市～杉並区	2	T-2	9. 歴史・自然	水路沿の自然生態系	◎	開水路区間 (立川市・小平市・武蔵野市・三鷹市・杉並区)
		3	T-3	2. 水利施設	玉川上水分水口・遺構	◎	昭和40年淀橋浄水場移転前の分水口(15口※2)
		4	T-4	6. 水路管理	玉川上水水番所・水衛所跡	◎	江戸時代水番所, 明治時代から昭和40年までの水衛所跡※3
I 玉川上水上流	羽村市	6	U-1	2. 水利施設	羽村の堰	◎	土木学会推奨遺産
	福生市	8	U-3	1. 水路構造	玉川上水旧堀跡	◎	福生市史跡
	福生市	10	U-5	3. 街道橋梁	日光橋(レンガアーチ)	◎	※2小金井橋と同様近代の橋脚の代表例
	立川市	13	U-8	1. 水路構造	旧残堀川開削	◎	
	立川市	17	U-12	1. 水路構造	古残堀川交差付近築堤大曲	◎	
	立川市	18	U-13	8. 水辺開発	旧巴河岸跡	○	舟運の事例として
	立川市	19	U-14	5. 水辺利用	金比羅山	◎	
II 玉川上水中流	小平市	20	M-1	6. 水路管理	小平監視所	◎	
	小平市	22	M-3	3. 街道橋梁	上水小橋	○	
	小平市	23	M-4	3. 街道橋梁	小川橋・石橋供養塔	◎	
	小平市	24	M-5	8. 水辺開発	久右衛門橋・船溜跡	○	
	小平市	32	M-15	5. 水辺利用	名勝小金井(サクラ)	◎	国指定名勝(大正13年)名勝小金井桜碑, 境石等を含む
	小平市	33	M-16	3. 街道橋梁	小金井橋	◎	下部アーチは保存(日光橋と同じ)
	武蔵野市	34	M-19	9. 歴史・自然	独歩の森(境山野緑地)	◎	
	三鷹市	40	M-25	5. 水辺利用	風の散歩道	○	
	武蔵野市・三鷹市	41	M-26	5. 水辺利用	都立井の頭恩賜公園(弁天池・御殿山)	◎	神田上水関連
	三鷹市	44	M-29	5. 水辺利用	玉川上水緑道・溪谷・農業	◎	
	三鷹市	45	M-30	10. 文献・碑	牟礼橋・人見街道	◎	
	杉並区	46	M-31	10. 文献・碑	水難者慰霊碑群	○	松本訓導、金田一、下高井戸の3点をまとめて追加
	杉並区	48	M-33	1. 水路構造	浅間橋と開水路終点	○	開渠部分の終点として
III 玉川上水下流	杉並区	54	D-8	2. 水利施設	新水路跡と水道道路	◎	
	杉並区	55	D-9	7. 水道施設	和泉水圧調整所	○	

市民が選んだ玉川上水本線関連遺構100選候補

(○2~3人の評価, ◎4人以上の評価) ※1

区間区分	行政区	番号	記号	分類	タイトル	評価	摘要
Ⅲ玉川上水下流	渋谷区	58	D-12	1. 水路構造	代田橋～笹塚橋開渠区間	○	四谷大木戸、魚藻池、内藤新宿分水散策道等 東京都史跡 渋谷川の一環として位置
	渋谷区	62	D-16	7. 水道施設	淀橋浄水場跡	◎	
	新宿区	64	D-18	5. 水辺利用	新宿御苑	◎	
	新宿区	65	D-20	10. 文献・碑	水道碑記	◎	
	新宿区	66	D-21	1. 水路構造	余水吐バルブと渋谷川流出	◎	
	新宿区	67	D-23	1. 水路構造	濠池管	○	
S.外濠	新宿区	71	S-1	2. 水利施設	四谷市中配管と御門掛樋	○	四谷見附跡を含む 国史跡
	港区 千代田区	73	S-3	1. 水路構造	弁慶濠	○	
	新宿区 千代田区	74	S-4	1. 水路構造	真田壕	○	
	千代田区	77	S-7	2. 水利施設	清水谷公園 石枡	○	
	新宿区 千代田区	78	S-8	1. 水路構造	市ヶ谷濠・新見附濠・牛込濠	○	
	新宿区 千代田区	80	S-10	1. 水路構造	外濠の神田川出口	○	
N.日本橋川	千代田区	81	N-1	1. 水路構造	神田川からの分派	○	
	千代田区	83	N-3	1. 水路構造	江戸城石垣	○	
	中央区	84	N-4	5. 水辺利用	日本橋川と魚河岸跡	○	
	中央区	85	N-5	10. 文献・碑	日本橋と日本国道路元標	○	
	中央区	88	N-8	1. 水路構造	隅田川合流	○	

※1 ◎23 ○20 計43件

(2) 玉川上水・分水関連遺構100選候補 (○2~3人の評価, ◎4人以上の評価) ※1

分水名	市区	番号	記号	分類	タイトル	評価	摘要	
1. 福生分水(田村・設楽分水)	福生市	1	1-1	2. 水利施設	田村分水と田村酒造	◎	国登録文化財	
2. 熊川分水	福生市	2	2-2	5. 水辺利用	料亭幸楽苑の泉水	○	国登録文化財福生市重要景観資源	
	福生市	3	2-3	2. 水利施設	熊川分水と石川酒造	◎		
3. 拝島分水	昭島市	4	3-2	3. 街道橋梁	拝島分水と拝島宿	○		
4. 殿ヶ谷分水	昭島市	5	4-1	10. 文献・碑	殿ヶ谷分水記念碑と開渠	○		
	昭島市	7	4-3	1. 水路構造	殿ヶ谷分水開渠区間	○		
5. 柴崎分水	立川市	8	5-2	2. 水利施設	ハラックルマ(中島水車跡)	○	柴崎分水:立川市史跡指定	
	立川市	9	5-4	1. 水路構造	中央線掛樋	○		
	立川市	10	5-5	2. 水利施設	旧名主家の門と柴崎分水	○	洗い場が残る	
	立川市	13	5-8	2. 水利施設	普濟寺の洗場	○		
砂川用水	6. 砂川分水	立川市	15	6-2	4. 新田開発	旧田用水(田堀)	◎	
		立川市	24	6-11	1. 水路構造	開渠の砂川用水と石垣の築堤	◎	
	8. 南野中分水	国分寺市	26	8-1	1. 水路構造	国分寺を潤す水路	◎	
		国分寺市	27	8-2	2. 水利施設	榎戸水車遺構	◎	
砂川用水	9. 国分寺・恋ヶ窪分水	国分寺市	29	9-1	1. 水路構造	恋ヶ窪分水復活遺構	◎	築堤の景観は薄いが長距離にわたり遺構がわかる
	10. 小金井分水	小金井市	32	10-1	1. 水路構造	ほっこぬき(胎内堀)	◎	
		小金井市	33	10-2	2. 水利施設	小金井分水門	○	
		小金井市	34	10-3	1. 水路構造	山王窪の築樋	○	
	11. 梶野分水	小金井市	36	11-1	1. 水路構造	梶野分水築樋	○	
	12. 境村分水	武蔵野市	37	12-1	5. 水辺利用	花の通学路	○	
武蔵野市		41	12-5	5. 水辺利用	杵築大社	○		
13. 源五右衛門分水	立川市	42	13-1	1. 水路構造	源五右衛門分水跡	◎		
野火止用水	14. 上流	東大和市	47	14-2	9. 自然環境	東大和・ホテルの里	○	
		東大和市	48	14-3	5. 水辺利用	野火止緑地(東大和市)	○	
		東村山市	50	14-5	2. 水利施設	恩多野野火止水車苑	○	
		東村山市	51	14-6	10. 文献・碑	萬年橋のげやき	○	
	15. 下流	新座市	55	15-1	1. 水路構造	たかばしの伏越	◎	平林寺林泉 埼玉県名勝 7ホテル養殖試行中
		新座市	56	15-2	5. 水辺利用	史跡公園	◎	
		新座市	59	15-5	5. 水辺利用	平林寺と平林寺堀	◎	
		新座市	60	15-6	9. 自然環境	西分橋付近のホテル養殖の試み	○	
		志木市	62	15-8	1. 水路構造	慶応志木高校野火止用水跡	○	
志木市	63	15-9	1. 水路構造	いろは樋架設跡	◎	埼玉県史跡		
16. 小平用水	小平市	64	16-1	1. 水路構造	新堀用水	◎		
		65	16-2	1. 水路構造	胎内堀(新堀用水)	◎		

玉川上水・分水関連遺構100選候補 (◎2~3人の評価 ◎4人以上の評価) ※1

分水名	市区	番号	記号	分類	タイトル	評価	摘要	
16. 小平用水	小平市	66	16-4	2. 水利施設	小川用水南北分岐門	○	市民:追加要望 市民:追加要望 延長約600m	
	小平市	67	16-5	2. 水利施設	小川用水分水門群	◎		
	小平市	68	16-6	5. 水辺利用	小平市親水水路, 緑道のネットワーク	◎		
	小平市	70	16-8	2. 水利施設	小島水車遺構(新堀用水)	◎		
	小平市	71	16-9	2. 水利施設	清水水車遺構(新堀用水)	○		
	小平市	72	16-10	1. 水路構造	大沼田用水 筑廻水路	◎		
	小平市	73	16-11	1. 水路構造	鈴木用水掛樋	◎		
	小平市	76	16-14	5. 新田開発	水路沿いの農家屋敷林・洗い場	○		
	小平市	77	16-15	5. 新田開発	畑地を通る田無用水	○		
千川上水	17. 上流	武蔵野市	78	17-1	10. 文献・碑	清流復活の碑	○	サクラについては要検討
		武蔵野市	79	17-2	5. 水辺利用	千川上水遊歩道	○	
		練馬区	84	17-7	10. 文献・碑	仙川堤桜楓植樹碑	○	
		練馬区	85	17-8	5. 水辺利用	中新井分水跡(武蔵大・濯川)	○	
	18. 中流	豊島区	93	18-6	2. 水利施設	千川上水公園(分配堰沈砂池)	○	
		北区	94	18-7	2. 水利施設	千川上水分配堰碑	○	
	19. 下流	文京区	99	19-1	5. 水辺利用	六藝園	○	
		文京区	100	19-2	5. 水辺利用	小石川植物園	○	
		台東区	102	19-4	5. 水辺利用	上野動物園内水路遺構	◎	
	20. 品川用水	三鷹市	103	20-2	1. 水路構造	開水路遺構	○	
世田谷区		104	20-3	1. 水路構造	丘陵を開削した玉石積	○		
世田谷区		105	20-4	2. 水利施設	野澤の大水車遺構	○		
品川区		106	20-5	5. 水辺利用	戸越公園の泉水	○		
21. 牟礼分水	世田谷区	112	21-2	5. 水辺利用	中川遊歩道	○		
22. 三田用水	渋谷区	113	22-2	3. 街道橋梁	東大研究所正門前橋の欄干	○	都心に近いところに残された遺構	
	目黒区	114	22-3	1. 水路構造	嵩上げされた流路跡	○		
	港区	116	22-5	5. 水辺利用	旧朝倉家住宅の水路跡	○		
	港区	120	22-11	1. 水路構造	三田用水導堤遺構	◎		
	港区	122	22-13	5. 水辺利用	鶴島松濤公園の池と水車	○		
23. 神田川助水	新宿区	123	23-1	1. 水路構造	神田川への助水堀跡	○		

※1 ◎22 ○41 計 63

5. 玉川上水・分水網の関連遺構とその構成

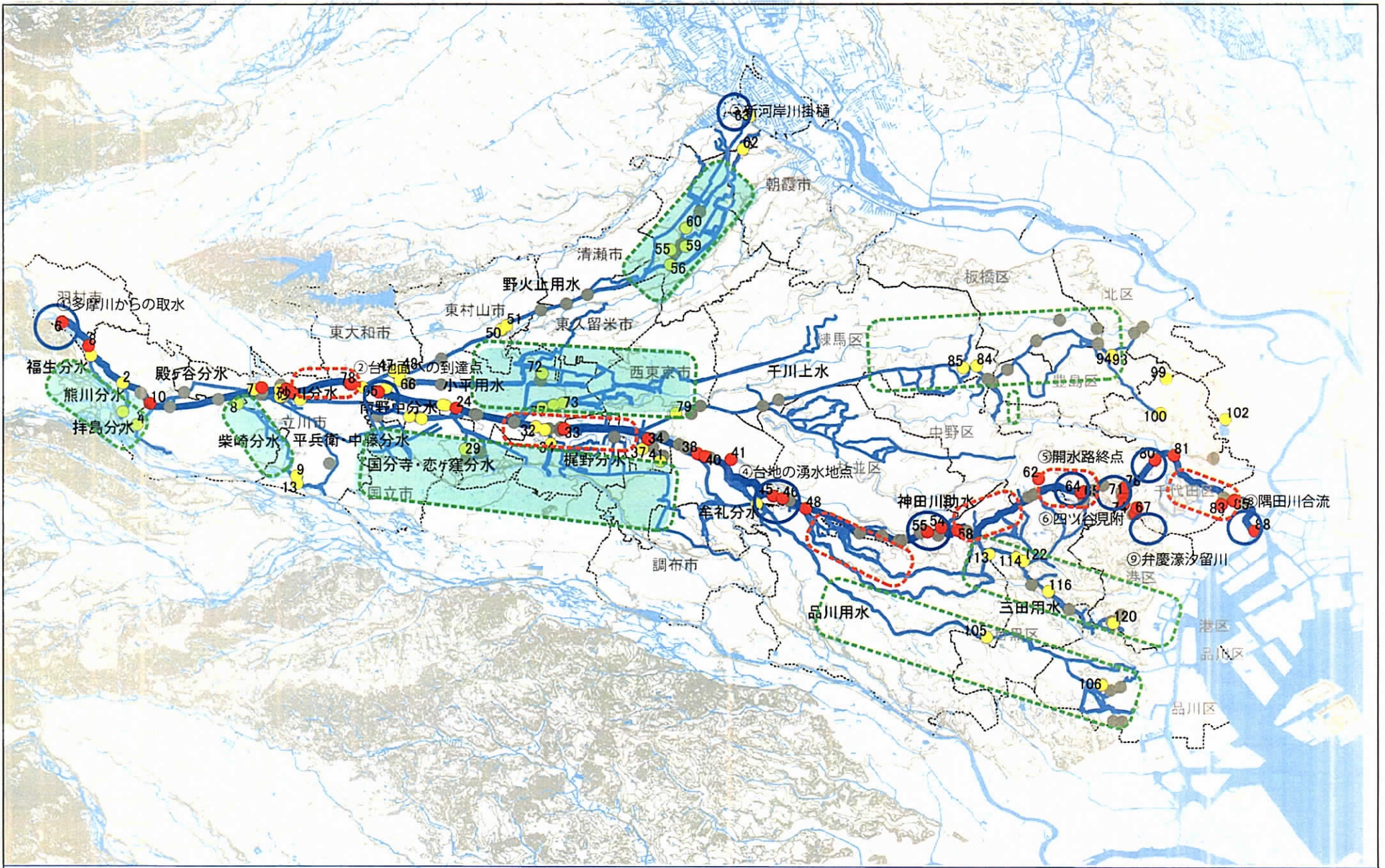
選定された玉川上水・分水網の関連遺構の分布を見ると大きく、玉川上水・分水網の全体的な構成に関わる遺構、本線・分水の各々の遺構が集中的に分布するエリアに分けて捉えることができる。これらを概観すると、図-2

表-8 のように整理することができる。

これは、遺構などを構造的にあるいはエリアとして捉え保全再生することの重要性を示唆していると考えられる。

表-8 玉川上水・分水網の構成と関連遺構

区分	番号	名称	関連遺構100選	その他	概要
玉川上水・分水の主な結節点	①	多摩川からの取水	羽村堰	多摩川上流の扇状地河川、水制	多摩川からの取水堰、投げ渡し堰、上流に羽用水
	②	台地面への到達点	小平監視所	旧小平水術所	元は本線、野火止用水、小平用水の分岐点、水道原水の終点
	③	新河岸川掛樋	いろは樋	野火止用水と新河岸川交差、舟運	野火止用水は平林寺を経て新河岸川を渡り左岸の桑岡へ
	④	台地中腹の湧水	弁天池	神田上水水源、神田上水への助水	弁天池は台地中腹の湧水、玉川上水は神田上水への助水も
	⑤	開水路終点	新宿御苑・四谷大木戸	水道記碑、沈砂池、余水吐	江戸市街地への配水、余水は渋谷川の水源にも
	⑥	江戸水道とお濠	四ツ谷市中配管と掛樋	見附掛樋跡、淀構浄水場と濠池管	江戸水道は現在の新宿通りから江戸城へ、一部はお濠の水源に
	⑦	神田川・日本橋川	神田川から分派	日本橋川分岐、江戸市中の舟運	神田川旧流路は平川は日本橋側筋へ、江戸中期に現在の神田川開削
	⑧	隅田川合流	日本橋魚河岸 隅田川舟運	常盤橋、石垣、証券取引所	隅田川・日本橋川の舟運と魚河岸さらに、金融・商業の中心地へ
	⑨	弁慶濠・汐留川	真田濠 弁慶濠	赤坂溜池	四ツ谷見附から右回りの濠は溜池池跡、汐留川を通じて東京湾へ
本線の主な関連遺構の分布区間	①	羽村堰周辺	羽村堰・投げ渡し堰	陣屋跡、水神社、羽用水(上流)	多摩川扇状地の中腹に設置された斜堰、周辺丘陵と調和した景観
	②	大曲周辺	古残堀川交差付近、築堤	巴河岸跡、金毘羅山、金比羅神社	立川断崖との交差部、断崖下端に古残堀川、これを超えるために築堤。
	③	小金井桜周辺	名勝小金井(サクラ)	小金井桜樹碑、境界石、小金井橋等	江戸時代からの桜の名所、隣接の都立小金井公園とあわせ賑わう
	④	井の頭公園周辺	御殿山・弁天池	井の頭池遺跡群(旧石器、縄文時代)	江戸時代からの行楽地、御殿山、池、動物園等多くの文化的施設が立地
	⑤	牟礼周辺	玉川上水緑道、溪谷、農業	牟礼橋・人見街道、水難慰霊碑等	水路が深くなり急流、沿線には樹林・蔬菜畑が残る。水難者も多かった
	⑥	和泉・糀谷周辺	新水路跡、開渠区間	和田水匠調整所、三田用水分水	玉川上水下流、台地の南端を流れる。このため、北側に盛土し水路を設置
	⑦	淀構浄水場跡周辺	淀構浄水場跡	淀構浄水場跡の碑、旧浄水場六角堂等	東京近代水道の基点、明治32年～昭和40年まで稼働、水利システムの再編
	⑧	新宿御苑周辺	四谷大木戸跡、水道記碑	濠池管、渋谷川余水吐、魚藻池等	玉川上水開水路終点、江戸市中暗渠配水、渋谷川へ余水排水。
	⑨	外濠	市ヶ谷壕、新見附濠、牛込濠	外濠の神田川出口、真田濠、弁慶濠	玉川上水は濠の最高地点の四谷見附に至り左右の外濠に分かれ注ぐ
	⑩	日本橋周辺	日本橋道路元標、兜町	日本橋川を軸とした運河網、河岸の発達	隅田川・日本橋川を軸とした河岸、中山道・東海道の起点で交通・商業の要
分水の主な関連遺構の分布エリア	①	福生・熊川分水エリア	福生・熊川分水と酒造り	幸楽苑等の泉水	現在も多摩川の水が流れる分水。酒造りを中心として伝統的景観が維持
	②	柴崎分水エリア	水車跡、旧名主門と分水等	水田、洗場等の維持	現在も多摩川の水が流れる分水。水車跡、洗場が等田園的景観を形成
	③	砂川用水エリア	新田開発、分水復活、築堤等	玉川上水南側分水の合口(通船奉業)湧	砂川用水から現在も多摩川の水が流れる区間がある。崖線からの湧水も残
	④	野火止用水エリア	平林寺と平林寺姫野火止緑地	水車遺構、伏越し、掛樋、ホテル養殖等	小平監視所経由で下水道高度処理水が流れる、各所に水路、死者の遺構が
	⑤	小平用水エリア	新堀用水、小川用水分水門群	水路・緑道のネットワーク、農家屋敷新田	新堀用水・小川分水経由で市内50kmの分水路が維持、緑道等として活用
	⑥	千川上水エリア	千川上水遊歩道 千川上水公園	玉川上水経由で清流復活、中新井分水	旧千川上水と王子への分岐点千川上水公園地下に分配堰、沈砂池が残る
	⑦	品川用水エリア	戸越公園の泉水 野沢大水車遺構	開水路遺構 丘陵を開削した玉石積	現在は分水の水は流れていない。公園泉水等に面影を留める
	⑧	三田用水エリア	導堤遺構 旧朝倉住宅の水路跡	嵩上げされた流路跡 松濤公園の池と水	現在は分水の水は流れていない。公園泉水等に面影を留める



- 関連遺構100選(本線)
- 関連遺構100選(分水)
- 関連遺構(100選選定外)
- 水系の主な結節点
- 本線の主な遺構分布域
- 分水の主な遺構分布域
- 水の流れていないエリア

図-2 玉川上水・分水網の関連遺構分布と構成



今後の展開に向けて

■玉川上水・分水網の関連遺構から保全、再生へ

市民が選ぶ玉川上水・分水網の関連遺構の調査を通じて次のようなことを改めて確認することができた。

- ・関連遺構は武蔵野台地 m 低地、下町に広く分布しており、地域ごとに今もなお市民の間で記憶され、継承されていること。
- ・また、分水の地域毎に孤立していた玉川上水・分水網の調査保全活動が、玉川上水本線の水のご縁で歴史的にも地域毎にもつながっていることを改めて知ることができた。
- ・しかしながら、玉川上水・分水網の関連遺構失われつつあることも実態であり、100 選の遺構選定を契機に保全再生さらに、利活用の方策を講じることが望まれる。
- ・このために、関連遺構調査に参加いただいた市民団体および、自治体との連携を促し、保全再生の活動を展開することが必要となる。

■玉川上水の河川水通水からグリーンインフラの形成へ

- ・分水網関連遺構の保全再生は、基本的には玉川上水の水と緑の保全再生と連動していなければ単なる干からびた遺物となってしまふ。
- ・既に2回のシンポジウムを通じて、お濠や日本橋川の保全再生、安全な都市形成のために、緊急的に多摩川から玉川上水さらに、お濠・日本橋川までの導水が不可欠との認識が深まりつつある。
- ・この想いはさらに、外濠の市ヶ谷濠、真田濠の再生さらに、都市水路による連携の可能性も秘めている。
- ・このような、台地側の分水網の保全再生とあわせた、東京都心部の新たな水利システムの基軸として玉川上水の河川水通水が強く望まれる。
- ・玉川上水の保全再生は、台地・低地をつなぐ河川水通水が基本であり、その上でより安定した快適な水辺環境～グリーンインフラ～を創出し、次世代へ引き継ぐため、今後も積極的に活動を展開する。

玉川上水・分水網の関連遺構に参加いただいた市民（団体）の方々の熱意と暖かい想いに深く敬意を表するとともに、ご協力いただいた皆様に改めお礼申し上げます。